日刊
動労千葉
1988.3.30
No.2787
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

三里塚と連帯し実力闘争で闘おう

四・九国鉄労働者集会へ！

動労千葉は、三里塚反対同盟主催の「三・二七三里塚現地集会」に一五〇名の部隊で登場し、本格的攻防に入った二期決戦を「あくまで実力闘争で貫ぬく」という反対同盟との強固な労農連帯で闘いぬく決意を固めると同時に、「分割・民営化体制一周年」をもって鉄道労連・革マルと一層の癒着を深め、新たな国鉄労働運動破壊攻撃に打って出ようとしている政府・会社当局に対し、三里塚のように実力でたたかう決意をさらに打ち固めた。

三里塚をたたかう労働運動の拡大を

午前十時三〇分、動労千葉の部隊は成田に集合。この間、動労千葉が三里塚集会に結集することを妨害してきた会社当局は、この日は、動労千葉の迫力の前に一糸もふれることができない。結集した組合員は、前段の意志統一を終了し、現地へ向かうバスにのりこむ。集会場につくと全国から集まった参加者が動労千葉を拍手と声援で迎える。

動労千葉とともに動労西日本の有志、動労連帯高崎、動労水戸、国労共闘の部隊が集会場の真中に陣取る。三里塚をたたかう国鉄労働者は、鉄道労連と対決し、職場においても労働者の先頭でたたかっているからこそ、意気軒昂としている。今、本当に求められているのは、労働者こそ三里塚に学び、三里塚のようにたたかうということだ。

「分割・民営化一周年」弾劾！

この国鉄労働者の決起こそ、政府・会社当局をゆるがしていることは確実だ。三里塚闘争には、「軍事空港建設を進める国家こそ倒れるべき」というたたかいが大河のように脈々と流れている。首切り、生活破壊、失業、そして戦争をもたらす国家・政府こそ倒れるべきなのである。そうしたたたかいの共通のものとして、「四・一分割・民営化体制」粉砕、鉄道労連解体のたたかいがある。

三・二七三里塚の勝利をひきつぎ、四・九国鉄労働者集会の成功をかちとろう！

東峰十字路付近を力強くデモ行進する動労総連合、国労共闘、動労千葉を支援する労組活動家連絡会議のデモ隊。労働運動の産報化阻止！三里塚を闘う戦闘的労働運動を創りだす決意がみなぎっている！

4・9 国鉄労働者集会

とき　4月9日　15:00

ところ　東京交通労組会館
山手線田町駅下車

当面するたたかい

- 3・30　・支部代表者会議
- 　　・動労水戸地裁闘争
- 4・1　・動労西日本ストライキ支援闘争
- 2　・動労総連合定期委員会
- 　　・家族会団結花見会
- 6　・全金本山東京支店闘争
- 9　・国鉄労働者集会

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！